

第 130 回日本解剖学会・第 102 回日本生理学会・第 98 回日本薬理学会 合同大会

日本学術会議後援 機能医科学分科会連携シンポジウム

『基礎医学研究から拓く次世代ヘルスケア』

1. 主催： 第 130 回日本解剖学会・第 102 回日本生理学会・第 98 回日本薬理学会 合同大会

2. 共催： 日本学術会議 機能医科学分科会

3. 後援： 日本学術会議
日本生命科学アカデミー

4. 日時： 2025 年 3 月 17 日(月) 8 時 30 分～10 時 20 分

5. 場所： 幕張メッセ(千葉市) 〒261-8550 千葉市美浜区中瀬 2-1

6. 開催趣旨

睡眠は身近であるが謎に満ちた生理現象である。睡眠と健康の問題は密接に関わり合う課題である。たとえば睡眠の悪化は代謝疾患や精神疾患等のリスク因子であり、精神疾患の主要症状の1つは睡眠の悪化である。2010 年代に入って、基礎医学的視点から睡眠制御機構の解明が急速に進み、新たな知見に基づく臨床医学への展開が始まっている。また、情報処理技術・精密加工技術の発展に基づく新規測定デバイスの開発と汎化も進み、睡眠の情報を一次予防に役立て、健康維持・増進に役立てる「睡眠健診」の仕組みも現実のものとなってきた。

健康の維持・増進を目指す上で、科学的根拠を持った取り組み(エビデンスベースドヘルスケア)が求められている。一方で世界的な趨勢として生命科学の研究の進展とともに、学術の専門性が進んでおり、社会に成果を還元していくための横断的な連携が大きな課題になっている。これらの課題を解決する目的で、伝統のある基礎医学の3学会による日本初の合同大会 第 130 回日本解剖学会・第 102 回日本生理学会・第 98 回日本薬理学会 合同大会の開催に際し、基礎医学研究から拓く次世代ヘルスケアを考えるシンポジウムを開催し、産官学の著名な講演者に「睡眠」を軸にご講演頂く。

7. 次第

【オーガナイザー(座長)】

南 陽一(東京大学 大学院医学系研究科 システムズ薬理学 准教授)

赤羽 悟美(東邦大学 医学部 生理学講座 統合生理学分野 教授)

【演者】

8:30 - 8:32 開会の挨拶・趣旨説明 赤羽 悟美

8:32 - 8:35 イントロダクション 南 陽一

8:35 - 9:15 上田 泰己(東京大学 大学院医学系研究科 システムズ薬理学 教授)
「睡眠医学の現在と未来～睡眠健診の実現に向けて～」

9:15 - 9:55 山本 義春(東京大学 大学院教育学研究科 教育生理学分野 教授)
「睡眠とデジタルヘルス」

9:55 - 10:35 永光 信一郎(福岡大学 医学部 小児科 教授)
「ライフステージと睡眠 —小児科期からのこころの健康づくり—」

10:35 - 11:15 谷口 倫子(厚生労働省 健康・生活衛生局 健康課 室長)
「健康日本21(第三次)における睡眠分野の取り組みについて」

11:15 - 11:20 まとめ・閉会の挨拶 南 陽一